

沖縄鉄軌道構想段階 PI おきなわ鉄軌道ニュース

2014年秋
創刊号
沖縄県企画部

おきなわ鉄軌道ニュースは、鉄軌道を含む新たな公共交通システム（以後、鉄軌道）の計画案づくりの検討状況をお伝えするため、県民の皆さまに配布しています。今後も検討状況に併せて、継続的に発行していく予定です。

沖縄鉄軌道の計画案づくりが スタートしました

沖縄県では、県土の均衡ある発展、県民及び観光客の移動利便性の向上、中南部都市圏の交通渋滞緩和、世界水準の観光リゾート地の形成、駐留軍用地跡地の活性化、低炭素社会の実現などを図る観点から、沖縄本島の南北を縦断し、那覇一名護間を1時間以内で結ぶ鉄軌道の導入について検討しています。

県は、この鉄軌道の計画案について、今年度から来年度までの2年程度かけて策定する予定

としており、透明性や客観性等を確保する観点から、まずは、計画策定の手順（プロセス）や体制について、有識者の意見を参考に県民の皆さまと情報共有を図りながら検討していくこととしています。

去る10月14日に、第1回の検討委員会を開催し、計画案づくりがスタートしました。今後は、皆さまのご意見等も広く集め、鉄軌道の計画案づくりが進められていくこととなります。

プロセス検討委員会では、進め方について議論しています

平成26年10月14日、「第1回沖縄鉄軌道・計画案策定プロセス検討委員会」が県庁にて開催され、鉄軌道計画の検討の進め方や、県民の皆さまに関わっていただく方法について、合意形成や公共政策の専門家にご議論していただきました。



屋井委員長（東京工業大学教授）は、県民の意見を聞きながら検討を進める今回の取り組みは、鉄軌道の計画検討において画期的な取り組みであることと評価した上で、県民の信頼と理解を得るため、プロセスを適切に実施して欲しいとの期待を示されました。

また、委員からは、改めて今、鉄軌道導入に向けて取り組む理由や公共交通利用に対する意識の転換の必要性を県民にしっかり示してほしいとの意見や、将来、鉄軌道の利用者となる若い人達から意見を集めることができるよう工夫すべきなどのご意見をいただきました。

鉄軌道の導入とは？

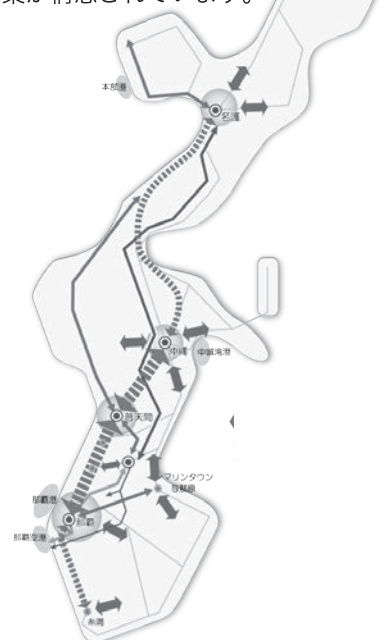
公共交通システムには、鉄道の他、モノレールや新交通システム、LRT（※1）、BRT（※2）、路線バスなど、様々な種類があります。

こうした公共交通システムを導入することで、通勤者、学生、高齢者、観光客などの活動圏域が広

がり、地域の振興が図られるとともに、自動車から公共交通への転換が図られることで、道路の慢性的な渋滞の緩和や、移動時間の短縮、駅中心のコンパクトなまちづくり、環境負荷の軽減につながる事が期待されています。

沖縄県総合交通体系基本計画

長期的なイメージとして、沖縄本島を縦断し、広域移動を支える鉄軌道の導入による利便性の高い公共交通ネットワークの構築が構想されています。



- 鉄軌道を含む新たな公共交通システムの導入
- LRT・BRT（基幹バスシステム）等
- 都市モノレール（延長含む）
- 都市モノレールと連携した高速バスシステム
- 地域間の移動を支える主要なバス網
- フィーダーバスサービス
- 主要な交通結節点
※多様な交通機関相互の乗継ぎ拠点
- サブ交通結節点
※公共交通相互の乗継ぎ拠点
- 拠点都市
※多様な活動を支える公共交通の拡充
※ニーズに対応したデマンド交通システム
- 空港・港湾

今後の予定

予定は変わることがあります

平成26年	10月：第1回プロセス検討委員会（終了） ：ステップ1検討開始
	11月：オープンハウス（※3）の開催 （本島26市町村、商業施設で実施） ：意見募集（11月中）
	12月：第2回プロセス検討委員会 ：検討プロセスの確定
平成27年	1月：鉄軌道導入検討の開始 ：おきなわ鉄軌道ニュース第2号発行

検討の進め方についてご意見 募集中です！

詳しくは、ウラ面をご覧ください！



※1）LRT（イル・アル・ティー）：は、Light Rail Transit の略で、低床で乗り降りがしやすく、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴をもつ次世代の軌道系交通システムです。

※2）BRT（ビー・アル・ティー）は、Bus Rapid Transit の略で、低床化されている連節バス等と、バス専用道、バスロケーションシステム（バス位置管理システム）等とを組み合わせて定時性、速達性を確保するバスシステムです。

※3）オープンハウスは、多くの県民が訪れる公共施設や商業施設にパネルを展示し、検討状況について情報共有する方法です。巡回している担当者に直接ご意見を伝えることもできます。

沖縄の公共交通が
もっと身近に、
もっと便利に！

モノレール 路線バス
で使えるIC乗車券システムが導入されます！

10/20日より発売開始
1枚：1,000円（デポジット500円含む）
※販売店舗は随時更新されます。

※SFカード（プリペイド式磁気カード）の払い戻しについては
沖縄都市モノレール株式会社 ☎098-959-2692（運輸課）まで

はじめていや～さい
OKICAやいび～ん



モノレールは
10/20日から

路線バスは
2015年4月から

IC乗車券「OKICA」とは

便利 早い
エコ 安心

・1枚でバスもモノレールも乗車できる！

・タッチで支払い
両替・小銭いらず！
※あらかじめカードにチャージ（入金）する必要があります。

・チャージすることで
繰り返し使える！

・紛失しても再発行できる！
※氏名等を登録する記念式カードの場合

「鉄軌道の計画案づくり」の進め方案（概要）

より詳しい内容につきましては、ホームページに掲載の予定です。

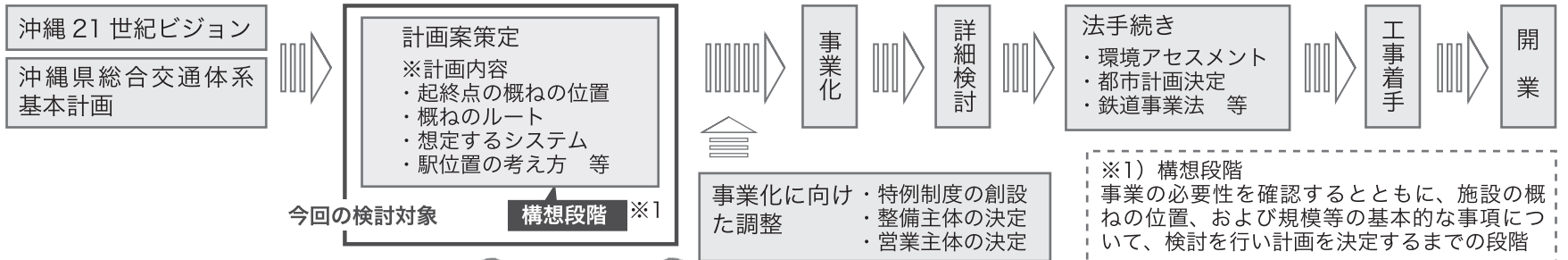
1 進め方に関する県の基本姿勢

- ◆ 「本島を南北に縦断し那覇一名護間を1時間以内で結ぶ鉄軌道の導入」に取り組む
- ◆ 鉄軌道導入による振興の方向性について、県民の理解と協力を得ながら検討を行う
- ◆ システムやルート選定において特定の立場に偏らず公正性を確保する
- ◆ 県民等と十分な情報共有を行う県民参加型プロセスを導入する
- ◆ 比較案について整備しない代替案も含め予断なく検討を行う

沖縄県では、5つのステップで鉄軌道の計画案を策定することを考えております。（**③ 進め方の方針**を参照）
今回のステップ1では、計画案を策定するためのプロセス（手順）と体制などについて県民のみなさまのご意見をお聞きしてまいります。

2 検討の対象（今回は構想段階）

- ◆ 計画案は概略的な計画検討を行う段階
- ◆ 計画案を確認した上で、詳細な計画の検討に移る。

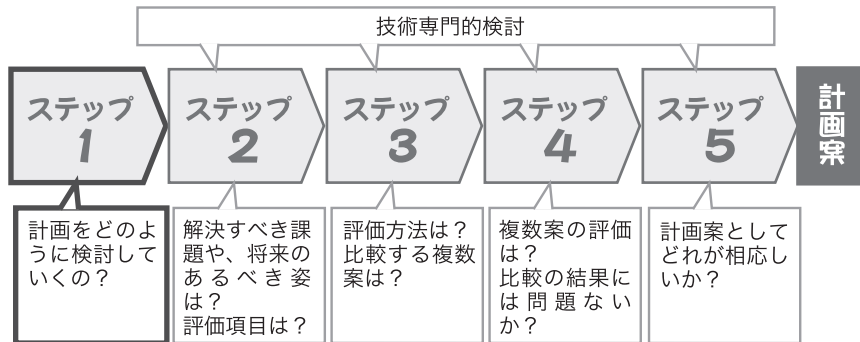


3 計画検討プロセス（案）

- ◆ 透明性、客観性、合理性、公正性を確保し、県民等と協力し幅広く検討
- ◆ 予め検討プロセスを明確化（国土交通省ガイドラインに準じた進め方）
- ◆ 段階的に検討を進め、H27年度末頃までに計画案を策定

段階的な検討の進め方（案）

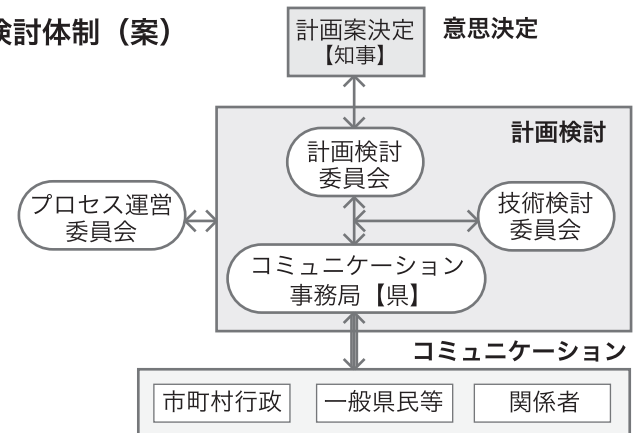
※ 各ステップの検討事項を一つひとつ確認しながら進めます。



4 検討体制のあり方

- ◆ 計画決定主体は県知事、計画検討は県事務局が進める
- ◆ 助言機関として、計画検討委員会、技術検討委員会を設置
- ◆ 公正性の担保のため、プロセス運営委員会を設置
- ◆ 県民等の参画促進のためコミュニケーション事務局を県に設置

検討体制（案）



ご意見・ご質問・お問い合わせはこちらへ！

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2
沖縄県企画部交通政策課
電話:098-866-2045 FAX:098-866-2448
メールアドレス info@oki-tetsukidou-pi.com
ホームページ http://www.oki-tetsukidou-pi.com

計画案づくりの進め方について
あなたのご意見をお聞かせください！

● 募集期間：平成26年11月1日（土）～11月30日（日）

みなさまの声を今後の検討に反映させていただくため、以下のアンケートにお答えの上、左記まで郵送、FAX、電子メールにてお送りください。（ホームページでは直接入力ができます）

郵送の場合は、下記を切り取り、封筒に貼付けてください。
当方で送料を負担いたします。

郵送、FAXの場合は、下記を切り取り、ご利用ください。

料金受取人払郵便
那覇中央局 承認 595
差出有効期間 平成27年1月 20日まで

（受取人）
沖縄県那覇市天久2丁目7番7号
沖縄県 企画部 交通政策課
「沖縄鉄軌道・計画案策定プロセスPI係」
（沖縄広告（株）内） 行

【居住地】 _____ 県 _____ 市・町・村 _____

以下の内容について、○をつけてください。

【性 別】 男 女 【年齢層】 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代～

【Q1】 沖縄県が、鉄軌道導入の取組みを行っていることについて

1. 今回知った 2. 以前から知っていた

【Q2】 沖縄県が、5つのステップを踏んで鉄軌道の計画案づくりを進めることについて

1. 理解できた 2. ある程度理解できた 3. 理解できなかった

【Q3】 その他ご意見・ご要望など（自由にお書きください）

アンケート